

合村80周年式典 託し村民憲章制定



式辞をのべる茨谷村長

横越村合村八十周年を祝う記念式典が、十一月六日横越小学校で開催され、県知事、国会議員等、村内外から二百余名が出席しました。

式は午前十時に始まり、君が代斉唱、黙とうのあと、式辞に立った茨谷村長は、「八十周年の歴史と今日ある横越村は先駆者の汗と血で築かれたものであり、これからも時代にふさわしい村づくりを村民一体となつて建設してゆく」ことを、浅見村議会議長は、「八十周年の意義は、過去を振り返り次の時代に今日の歩みをどう生かして行くかであり、住みよい社会を作る道は困難もあるが、先人の残した尊い経験と教訓を生かし明日の横越村を切り開くことであ

る」と挨拶されました。

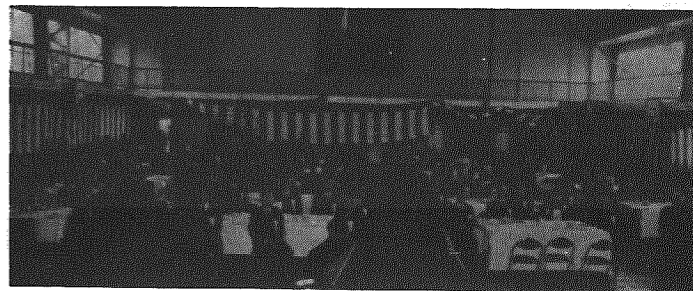
このあと村民憲章の除幕披露、名誉村民伊藤威夫氏の講話があり、伊藤氏は「終戦当時の村長として、日本の混乱期に軍需品の収容、二〇〇と爆弾の阿賀野川投棄等、村長も生命がけであった」等貴重な体験談を語られました。

次いで前村長神田正平氏等八名の功労者表彰、来賓祝辞等が行なわれました。

来賓祝辞で姉妹村の茨城県美浦村長桑野氏は「すばらしい村民憲章をお土産に頂きました。二十年來の契りとして

ぜひお嫁さんの交換を実現したい」と話されました。

式は、披露の中にも明るい雰囲気終始し、式終了後は祝杯を交し村の歴史や、想い出話して和やかに歓談しました。



村内外の来賓等240名が出席

限りなく発展を願う 村民憲章を制定



小、中学生らの手で除幕された村民憲章

村民憲章

私は横越村民として—
悠久に流れる阿賀野川のように
大空にかかる横雲橋のように
大地に波うつ龍徳のように
—人間性豊かなふるさとをつくりたい

- 1.働くことを喜び、生産にはげむ
- 1.土と緑に恵まれたるおいのあるむら
- 1.スポーツと文化を楽しむあかるいむら
- 1.老人をいたわり、青少年をはぐくむ
- 1.なんでも話し合い、力をあわせる

昭和56年11月6日制定

横越村

菊かおる 村の発展を

晴れの受章者八名 多年の功績に感謝を

合村八十周年を記念し、永年にわたつて特に功労顕著として、次の八名の方に村長から感謝状と記念品が贈呈され、多年の功をねぎらいました。



神田 正平氏 (前村長)



伊藤 松枝氏 (元消防副団長)



藤田 健太氏 (元助農会長)



石井 栄蔵氏 (元教育委員)



三浦 五郎氏 (元診療所)



星 順司氏 (元診療所)



田村 忠雄氏 (元農委会長)



小林 広次氏 (元選管学理)

横越村

村は、十一月を「合村八十周年記念月間」として、記念式典を中心に文化祭には、合村八十周年の行政資料展、農業祭にも横越村を知ってもらい、同時にこれからの横越村を展望する意味、で諸行事を計画実施しました。

限られた条件のなかで、関係機関や多くの方から

大らかな精神 風土をいつまでも

くの方から貴重な資料を頂きながら一定の時日、要覧の限界から割愛したりまた欠落等もあって、切角の好意に十分報い得なかつたお叱りは甘受せねばと思ひます。

また、合村八十周年を契機に村民憲章が制定されたことは、まことに意義深いものと思ひます。

「横越村八十周年の記録」は合村八十周年の集大成に、と多

八十周年の記録と呼びかけて開いた行政資料展と、農業八十周年の資料展は、何れも貴重な文化財として詳しい説明展示がなされ、直接目にふれた多くの参観者の感動を誘つたよ

これにめざすものは、美しいふるさとを自然をいっくしみ、豊かな人間性を培い歴史に根ざした伝統の「ままとまりと大らかな良風」を持ち続けて行きたいものです。

(佐藤)

行政資料展

懐かしい写真や 珍しい資料がいっぱい

村は合村八十周年を記念し十一月一日から三日間横越村公民館で文化祭と合わせて行政資料展を開きました。

この資料展は、日頃あまり目に触れることのできない行政資料を展示し、村民の皆さんから村の八十年のあゆみを知ってもらおうと行なったものです。

展示されたものは、パネルで一目で村の歴史がわかる年表や、人口、世帯の推移、道路や農業、小中学校、保育所の移りかわりなどがパネルによって描かれ、また実際に使ったという渡船の「かいぼう」、手回し計算機、明治・大正・昭和に渡る小学校の教科書が展示されました。



懐かしそうに展示を眺める親子

手づくりの味

「藤山郷土誌」を発売
希望者に実費頒布

藤山には、新しい地域社会建設の拠点となる藤山会館ができて、新しいスタートを切りました。これを機会に古いことを忘れさらず記録を残そうというのを発端となり、藤山史研究家グループ二十日会(田村茂理等八名)が発足。この程その研究成果がまとめられ、「藤山郷土誌」として

五版二五〇頁の本を刊行することになりました。

執筆編集は、著名な先生や専門家等の手を借りず、何れも地元の手で飾らざるばらず大人から子どもまで、いわば手づくりの味を読んでもらえたら、とされています。

この「藤山郷土誌」ご希望の方は、次に申し込んでください。

申込先 藤山 田村忠雄
電話二六七二番
代金 一冊 千五百円
発刊日 十二月一日